

3. 妻木山地区の発掘調査報告

— 妻木晩田遺跡第14次発掘調査（内容確認調査） —

1. 調査の目的

妻木山地区では一次調査および重点調査によって遺跡最盛期の集落像が明らかにされつつあり、丘陵の高まりごとに居住単位が展開し、丘陵の肩部に遺構の集中する様相を窺うことができる。その一方で、丘陵斜面地の遺構分布状況は未確認な部分が多く、集落の景観を復元していく上で課題の1つと考えられる。

今年度は内容確認調査第1期の妻木山地区調査最終年にあたり、未確認な点の多い斜面部の実態を探ることを課題として調査を行うこととした。

2. 調査の概要

調査対象地は、妻木山地区2区の丘陵から3区の谷部に向かって下がる、標高120～112mの北斜面である(図1)。調査地の南側、丘陵頂部では弥生時代後期中葉以降の居住域が展開している。

丘陵北斜面において遺構の分布状況を確認することを目的とし、丘陵肩部から斜面部にかけて調査を行った。トレンチは等高線に直交するようにT1、T2、T3の3本を設定している。調査の期間は平成16年10月1日～12月21日、調査総面積は190㎡である。

聞き取りによると、調査地周辺は戦前・戦後に畑として利用されていたようである。調査前の踏査では、傾斜がやや緩やかに変化したテラス状の地形が認められ、斜面下部の標高115m付近でも高低差約1mの段状地形が東西方向に伸びていた。

T1

調査地で最も西側に位置し、丘陵頂部の遺構からの連続性の確認を目的としたトレンチである(図2)。調査範囲は東西3m×南北16mであり、段状地形の堆積状況を確認するため、北東壁にサブトレンチを設定している。

表土には①層(灰黄褐色土)が堆積している。斜面上方では厚さ20cmであるが、斜面中部から40～70cmの厚い堆積となり、これによって現地形がテラス状を呈している。しまりの弱い土質で、弥生時代後期後葉～終末期および近代の遺物を含んでいることから畑の開墾に伴う堆積と考えられる。①層はT2、T3でも確認できる堆積である。①層の下には、斜面上方に④層(にぶい黄褐色土)、下方に⑥層(褐色土)が堆積している。段

状地形は、表土から⑥層まで削平して造り出されている。④・⑥層下は、上から⑤層(暗褐色土)→⑦層(にぶい黄褐色土)→⑧層(褐色土)の順に堆積している。⑤・⑦・⑧層はT2、T3でも確認でき、丘陵の斜面全体に広がる堆積の可能性がある。

本来の遺構検出面は①層の直下であるが、④、⑥層上面をやや削りこんだ面で遺構を検出した。竪穴住居あるいは段状遺構(以下、S1)、土坑(以下、S2)、ピットを確認している。

S1の東西の端は調査区外に伸びており、検出した平面の規模は東西3m×南北5.4mである。形状・規模から竪穴住居跡もしくは段状遺構と推測される。埋土最上層である②層(黒色土)からは弥生時代後期後葉～終末期の特徴をもつ土器(図2-1～7)が出土したことから、S1は弥生時代後期後葉～終末期以前の遺構と考えられる。

S2の平面規模は東西1m×南北0.6mである。埋土最上層は黒褐色を呈している。遺物は出土していないが、S1埋土を掘り込んでいることから、S1埋没後に掘削された遺構と考える。

ピットの埋土は黒褐色土と褐色土の2種類が確認できる。不明瞭な形状のものがあり、木根の可能性も想定される。黒褐色土ピットにはS1を掘り込むものが認められる。褐色土ピットの時期は不明である。

T2

T1から15m東に位置している。丘陵頂部からの遺構の連続性の確認を目的とし、設定した範囲は東西3m×南北19mである(図3)。段状地形の堆積状況を確認するため、北東壁にサブトレンチを設定している。

表土には①層(灰黄褐色土)が堆積し、T1同様、斜面中部で一部厚みをもっている。①層の下は、斜面上方に④層(灰黄褐色土)、下方に⑥層(褐色土)が堆積している。④・⑥層以下の堆積は、上から⑤層(暗褐色土)→⑦層(にぶい黄褐色土)→⑧層(褐色土)である。段状地形は表土から⑤層まで削平して造り出されている。

本来の遺構検出面は①層の直下であるが、④、⑥層上面をやや削りこんだ面で遺構を検出した。段状遺構(以下、S3及びS4)、土坑(以下、S5)、ピットを確認している。

S3、S4の調査では、遺構の西端を確認する目的



图1 14次調査区位置图

119.60m

119.60m

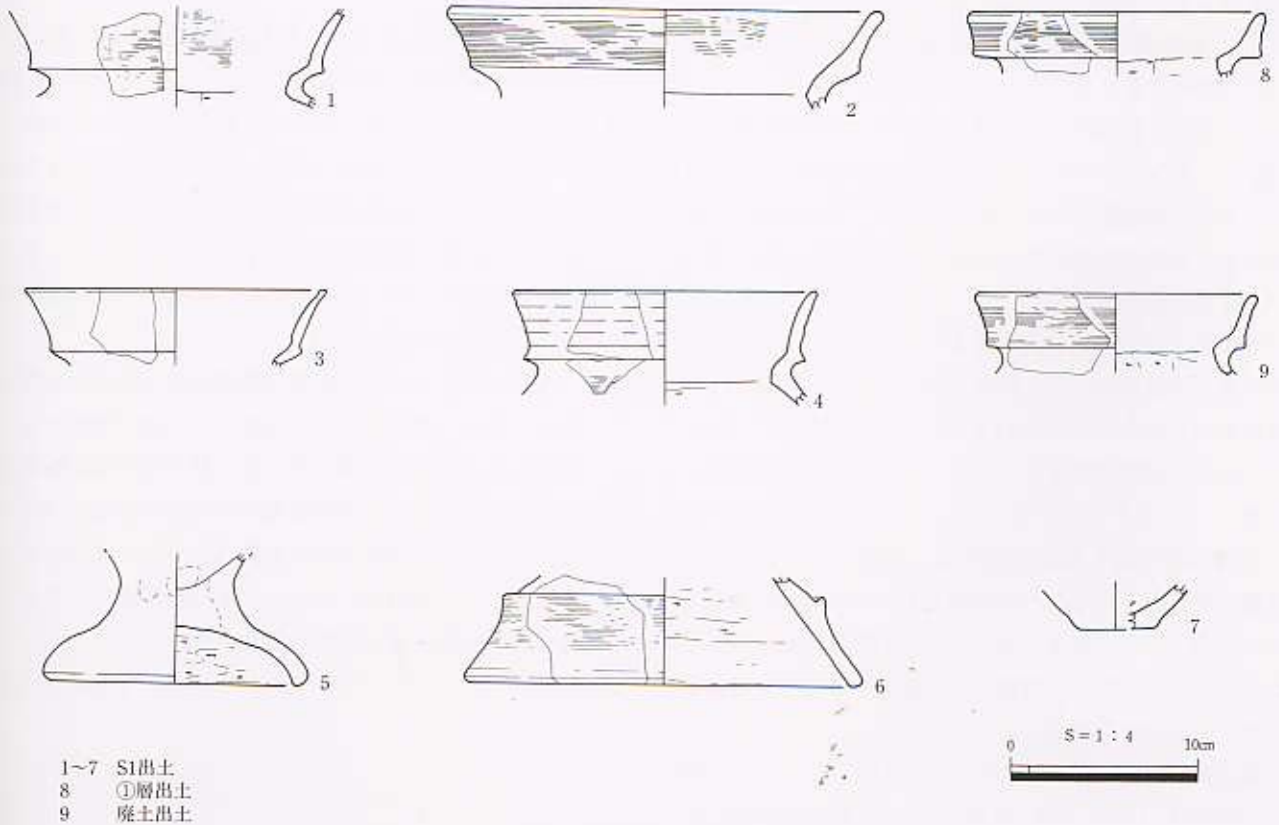
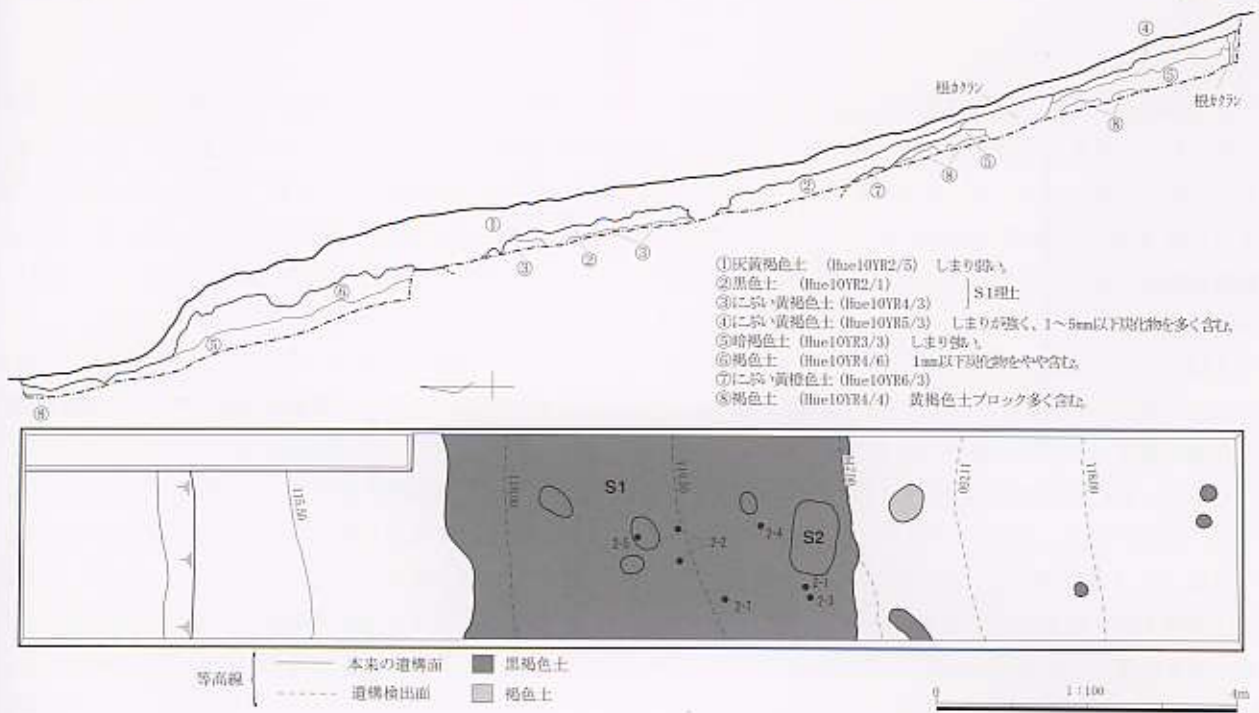


図2 T1遺構図・出土遺物

でトレンチを西へ拡張し、遺構を南北方向に断ち割るようサブトレンチを2本設定した。東側のサブトレンチをトレンチA、西側をトレンチBと呼称している。

S3、S4は共に壁溝、貼床を施しており段状遺構と推測される。以下、時期の古い順に各々の遺構の特徴について述べる。

S4は、S3の貼床下から検出した。検出範囲は東西0.3m×南北1.5mである。床面を水平に整えるため、厚さ2cmの貼床(⑧層)を施している。南壁際に壁溝を伴っており、その規模は幅約40cm、深さ約4cm、断面は「U」字状である。遺物は出土していない。

S3は、S4を削平してつくられている。検出した範囲は東西4m×南北3mである。床面を水平に整えるため、S4の埋土である①・①層上に約10cmの貼床(h層)を施している。南壁際に東西方向に伸びる壁溝を伴っており、溝の規模は幅約30cm、深さ約4cm、断面は「U」字状を呈する。⑥層から土器小片、石器(図7-3)が出土している。埋土最上層である⑩層からは弥生時代後期後葉(V-3期)の土器(図4-1~29、図5-1~13)が大量に出土したことから、弥生時代後期後葉以前の遺構と考えられる。

S5はT2拡張部の南西隅1.3m×1.3mの範囲で検出した。トレンチ外に広がっており全体形は不明であるが、土坑の可能性もある。埋土最上層である③層(灰黄褐色土)から弥生時代後期後葉の特徴をもつ土器(図5-13)を検出した。

その他、ピットを検出しており、埋土には黒褐色土・褐色土・灰黄褐色土の3種類が認められる。形状の不明瞭なものも含み、これらは木根の可能性も考えられる。ピットから遺物は出土しておらず、時期は不明である。

T3

本調査地で最も東に位置する。丘陵肩部～斜面部の遺構分布状況を探ることを目的とし、調査範囲は東西3m×南北20mである(図6)。T3は段状地形の東端にあたり、この地形の堆積状況を確認するために北西壁にサブトレンチを設定した。

表土には①層(灰黄褐色土)が堆積している。①層下の堆積は、上から②層(黒褐色土)→③層(灰黄褐色土)→⑦層(にぶい黄褐色土)である。斜面上方では①層直下に⑦層が堆積する。図化はできなかったが、③層から

土器が出土している。⑦層からは縄文時代後期後葉の土器(図6-1)が出土している。⑦層以下の堆積は、上から⑧層(明褐色土)・⑨層(暗褐色土)→⑩層(にぶい黄褐色土)・⑪層(褐色土)となっている。段状地形は①層を部分的に厚く盛り上げることによって造られ、T1、T2のような深い削平は認められない。

本来の遺構検出面は①層の直下であるが、⑦層上面をやや削りこんだ面で遺構を検出している。溝状遺構(以下、S6)、ピットを確認した。

S6は斜面肩部で検出した。東西方向に伸びており、東端は収束するが、西側はトレンチ外に伸びている。検出した規模は東西1.9m×南北1.1mである。埋土最上層は④層(黒褐色土)である。⑤層(黒褐色土)から土器が出土しているが、小片であり時期は不明である。

ピットの埋土は黒褐色土である。トレンチ北側に集中し、木根の可能性もあるものも含む。遺物は出土しておらず、時期は不明である。

3. まとめ

以上の調査によって、妻木山地区北斜面において弥生時代後期後葉以前の遺構の広がりが見定できる。妻木山地区では、居住単位の広がり丘陵頂部から斜面中部まで及んでおり、妻木山2区においては標高117m付近まで生活関連遺構が連続して存在していると考えられる。丘陵肩部の遺構の分布は平坦地を囲むように等高線に沿って広がっていることから、斜面部でも同様な遺構分布を示す可能性がある。

先述したように、斜面部の遺構分布の様相は未だ不明な点が多く、他の地区との比較を含め検討課題として重要である。また、本調査を含め、妻木晩田遺跡における斜面部の調査は丘陵北側に集中する傾向が認められる。北斜面において想定される遺構の広がりが南斜面においても認められるのかどうか、今後の調査研究によって問題の解決を図っていきたいと考える。

(長尾かおり)

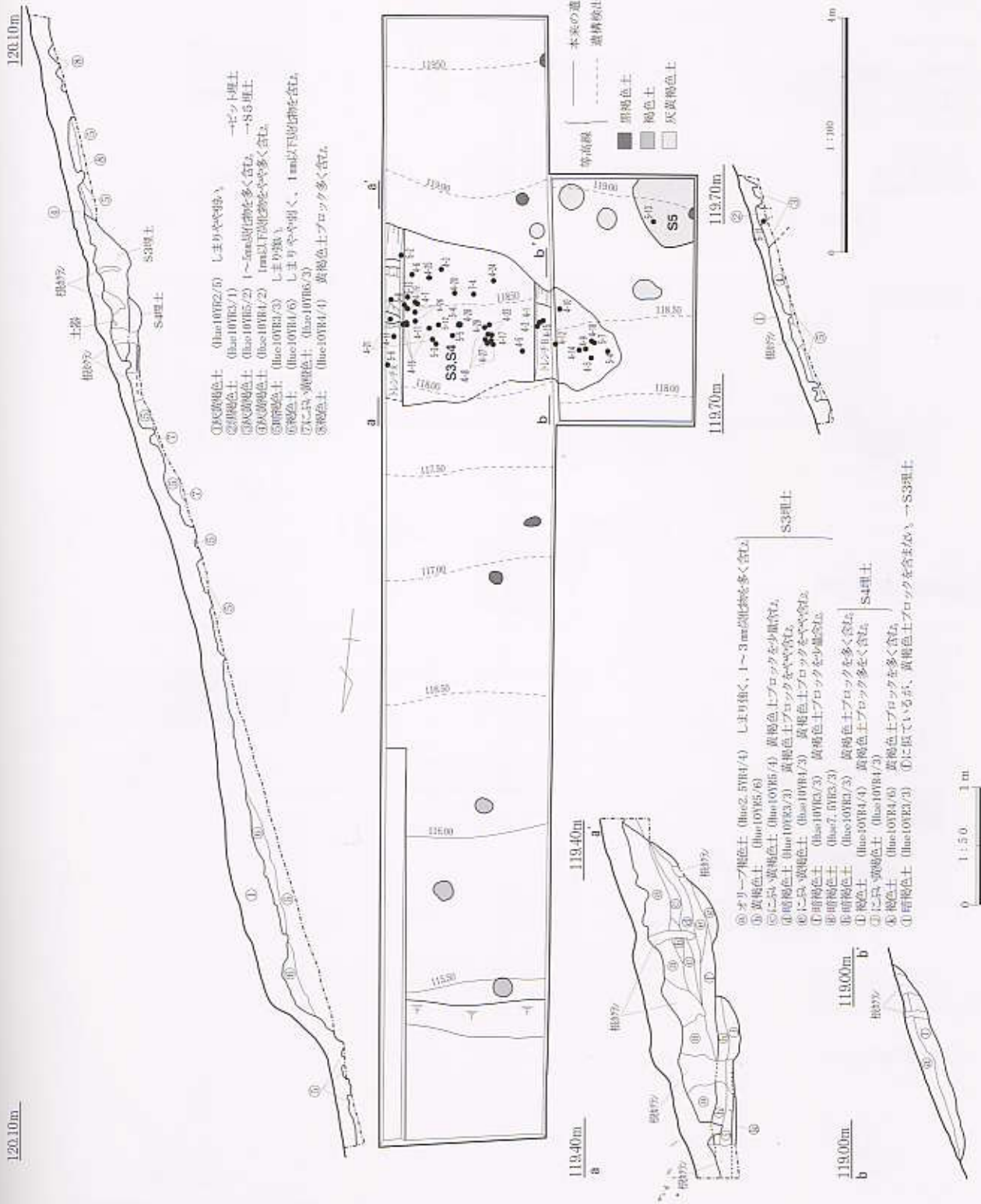


図3 T2遺構図・出土遺物

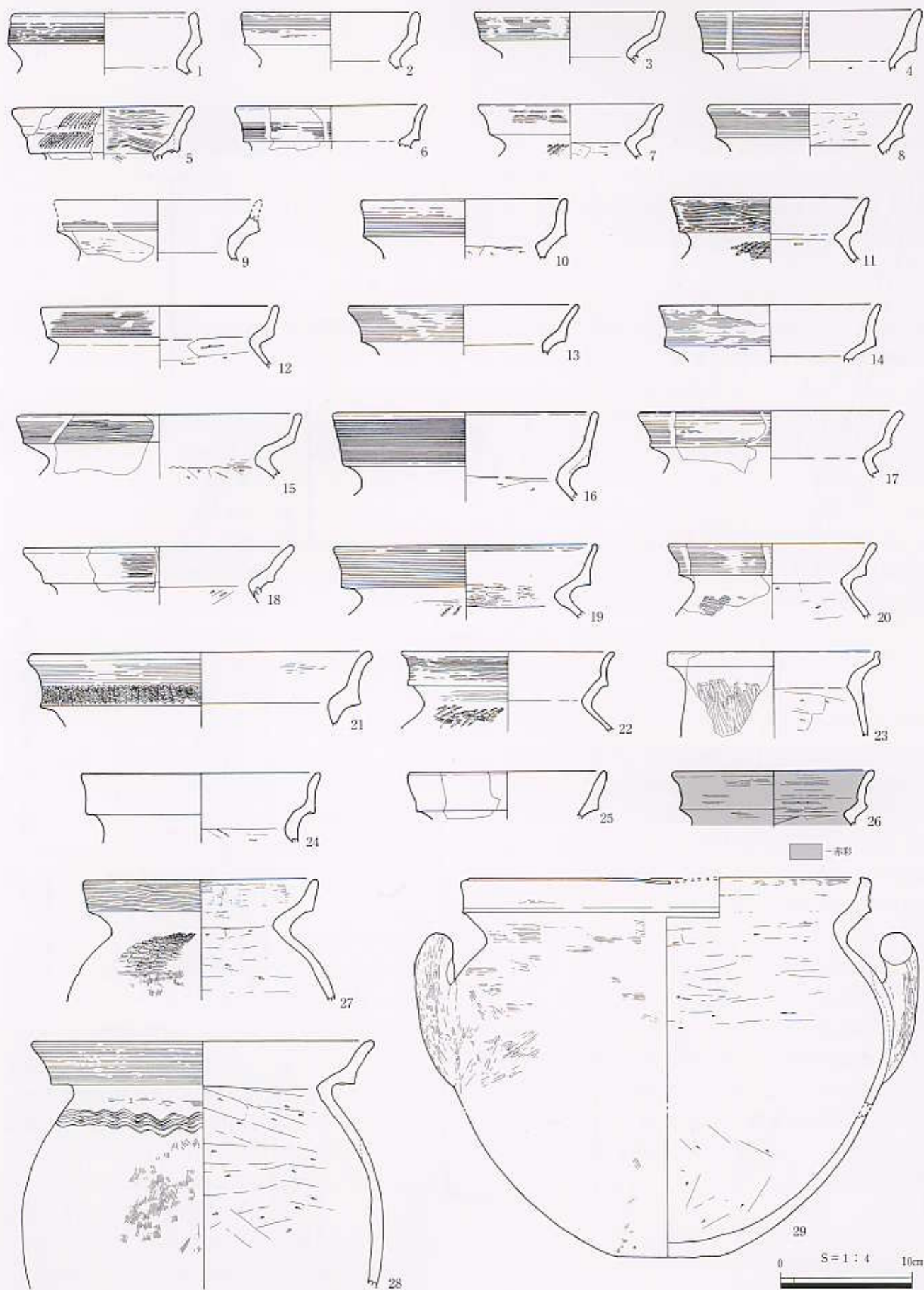


図4 T2S3出土遺物

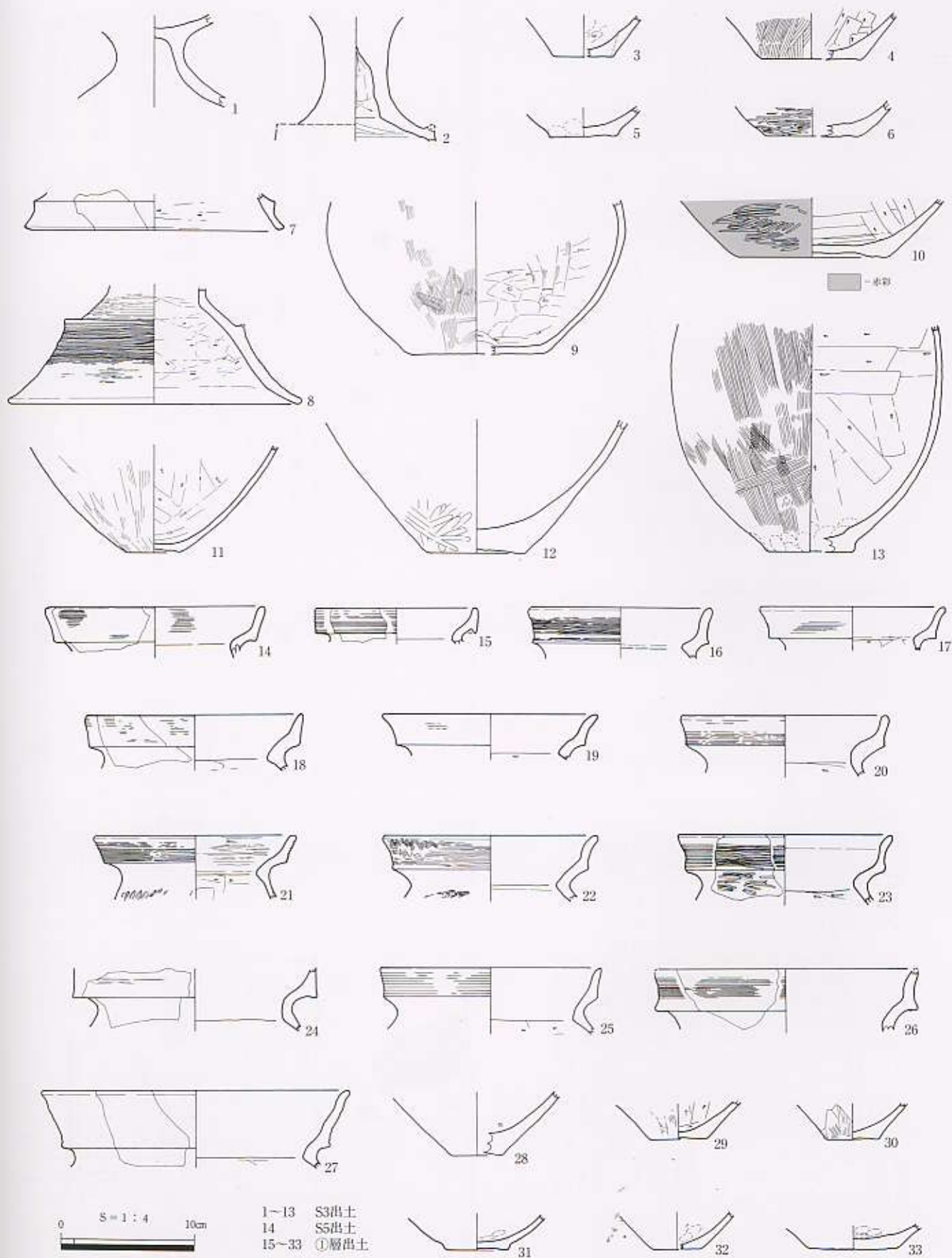


図5 T2出土遺物

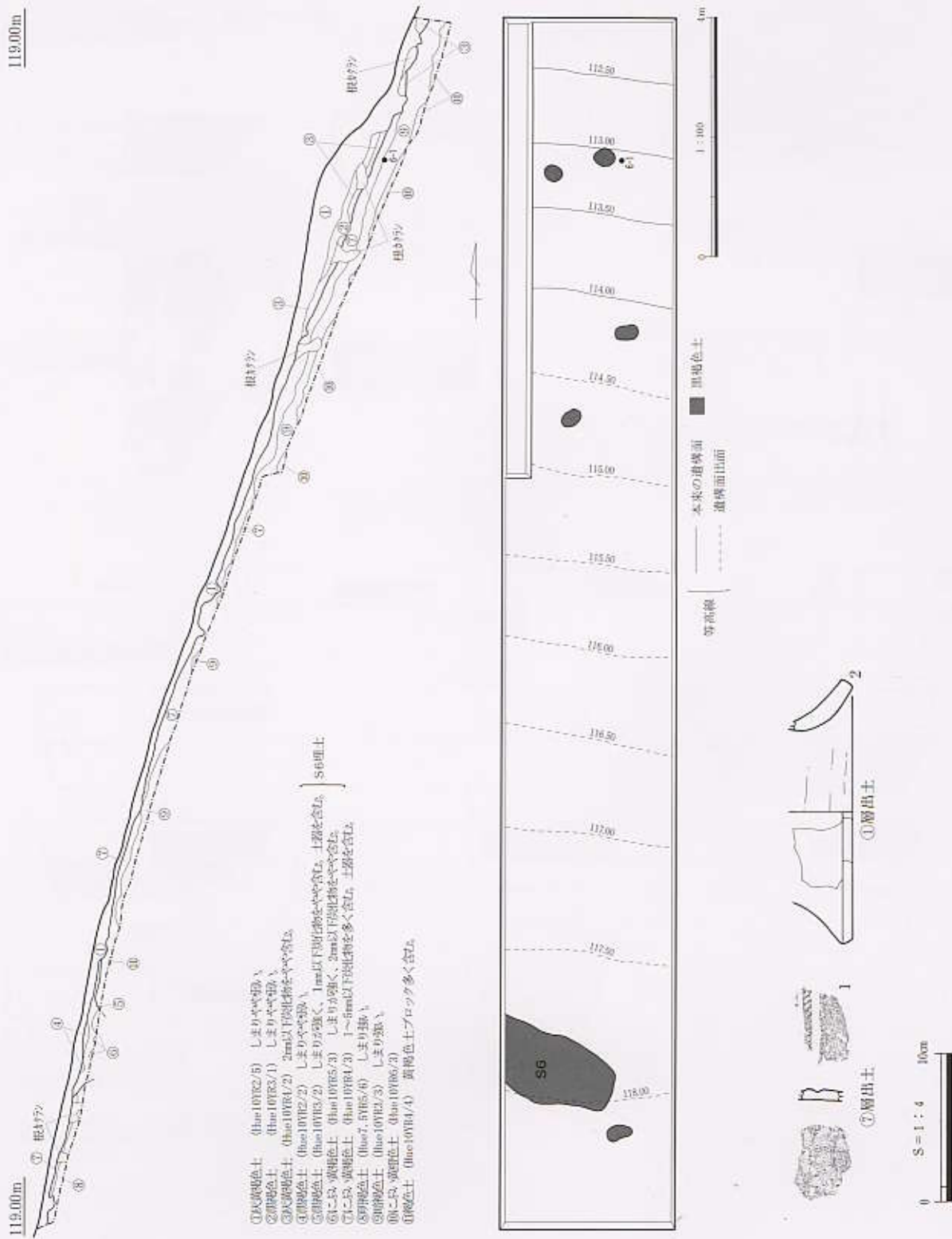


図6 T3遺構面・出土遺物

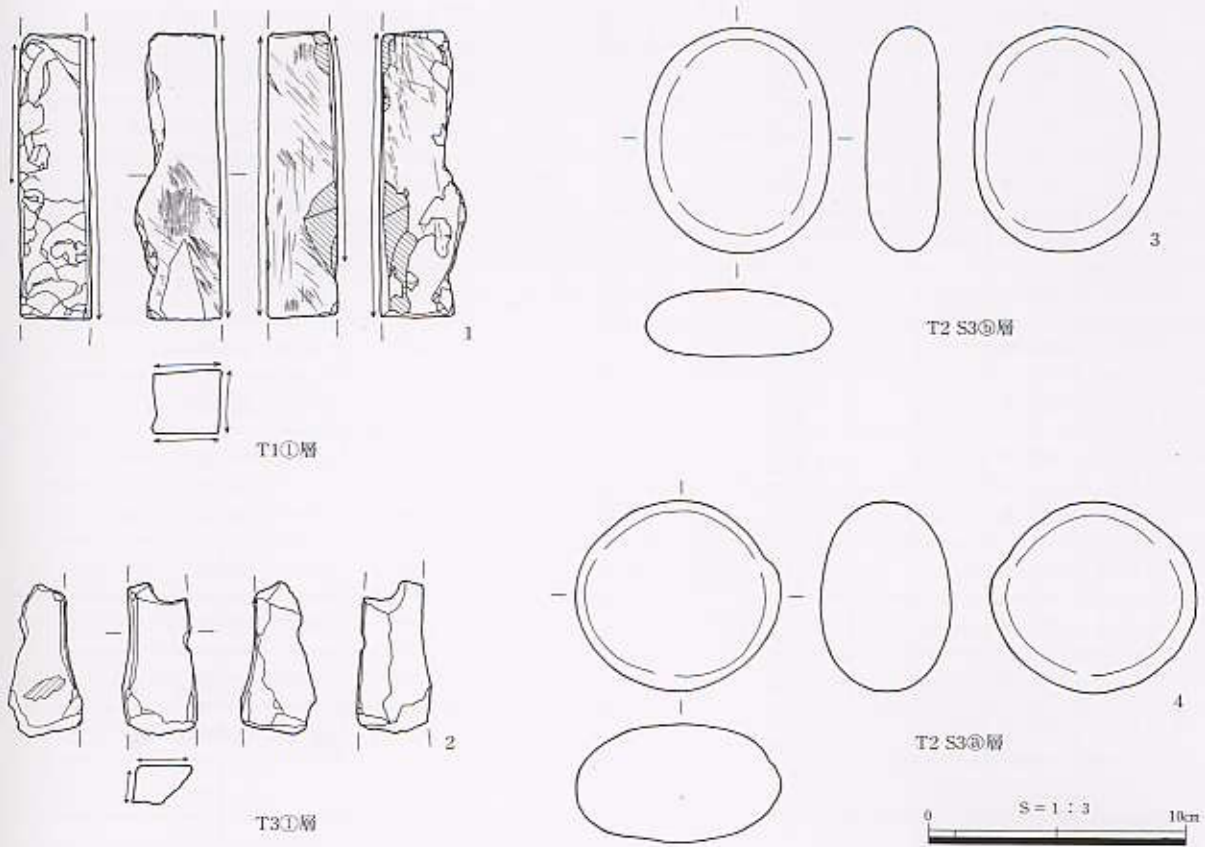


図7 14次調査出土石器

14次調査出土遺物観察表

土器

・胎土の色調は、『新版 標準土色帖』(農林水産省農林水産技術会議事務局監修)による

No.	トレンチ 遺構	層位	器種	法量(cm)			色調	調整		残存率	備考
				口径	底径(脚 径)	器高		外	内		
図2-1	T1 S1	②層	甕	-	-	5.3	外面：橙色 内面：橙色	ハケ	ハケ 頸部以下ケズリ	口縁1/16	-
図2-2	T1 S1	②層	甕	(22.6)	-	5.2	外面：にぶい黄褐色 内面：明黄褐色	ナデ	ハケ→ナデ 頸部以下ケズリ	口縁1/6	口縁外面に貝殻模縁による条痕文
図2-3	T1 S1	②層	高坏	(16.0)	-	4.1	外面：明黄褐色 内面：明赤褐色	ナデ	ナデ	口縁1/16	-
図2-4	T1 S1	②層	甕	(16.0)	-	6.1	外面：明赤褐色 内面：明赤褐色	ナデ ハケ	ナデ 頸部以下ケズリ	口縁1/16	口縁外面にナデによる凹線文
図2-5	T1 S1	②層	脚部	-	(13.0)	6.9	外面：にぶい黄褐色 内面：黒色	調整不明	ケズリ→ナデ	脚部1/2	-
図2-6	T1 S1	②層	器台	-	(21.0)	5.8	外面：明黄褐色 内面：黄褐色	風化のため 調整不明瞭	ケズリ ケズリ→ナデ	脚部1/10	脚部外面に櫛状工具による沈線文か？
図2-7	T1 S1	②層	底部	-	(4.0)	2.4	外面：明赤褐色 内面：にぶい黄褐色	ナデ	ケズリ	底部1/3	-
図2-8	T1	①層	甕	(15.2)	-	3.4	外面：にぶい黄褐色 内面：明黄褐色	ナデ	ナデ 頸部以下ケズリ	口縁1/10	口縁外面に貝殻模縁による条痕文を2回施文
図2-9	T1	産土	甕	(14.7)	-	4.2	外面：明褐色 内面：明褐色	ナデ	ナデ 頸部以下ケズリ	口縁1/12	口縁外面に貝殻模縁による条痕文を2回施文 外面に一部煤付着
図4-1	T2 S3	③層	甕	(13.2)	-	4.6	外面：橙色 内面：橙色	ナデ	ナデ 頸部以下ケズリ	口縁1/8	口縁外面に貝殻模縁による条痕文 外面に煤付着
図4-2	T2 S3	③層	甕	(13.0)	-	4.3	外面：にぶい褐色 内面：橙色	ナデ	ナデ 頸部以下ケズリ	口縁1/8	口縁外面に貝殻模縁による条痕文後一部ナデ 消し 外面煤付着
図4-3	T2 S3	③層	甕	(13.9)	-	3.5	外面：褐色 内面：褐色	ナデ	ナデ 頸部以下ケズリ	口縁1/6	口縁外面に櫛状工具による沈線文
図4-4	T2 S3	③層	甕	(16.6)	-	4.4	外面：浅黄褐色 内面：浅黄褐色	ナデ	ナデ 頸部以下ケズリ	口縁1/10	口縁外面に櫛状工具による沈線文を2回施文 か？

No	トレンチ 遺構	層位	器種	法量 (cm)			色調	調整		残存率	備考
				口径	底径(脚 径)	器高		外	内		
図4-5	T2 S3	⑧層	甕	(12.8)	-	4.0	外面: にぶい褐色 内面: 褐色	ナデ	ハケーナデ 頸部以下ケズリ	口縁1/6	口縁外面に貝殻による軽い刺突文を2段施す 口縁から頸部にかけて付着
図4-6	T2 S3	⑧層	甕	(14.2)	-	3.3	外面: 褐色 内面: 明褐色	ナデ	ナデ 頸部以下ケズリ	口縁1/12	口縁外面の下半部に貝殻腹縁による条痕文
図4-7	T2 S3	⑧層	甕	(13.9)	-	4.1	外面: 褐色 内面: 褐色	ナデ	ナデ 頸部以下ケズリ	頸部1/6	口縁外面に貝殻腹縁による条痕文後、下部を ナデ消し 胴上部に貝殻腹縁による押引文
図4-8	T2 S3	⑧層	甕	(14.8)	-	3.8	外面: にぶい黄褐色 内面: 明黄褐色	ナデ	ケズリーナデ、 ミガキ 頸部以下ケズリ	口縁1/2	口縁外面に貝殻腹縁による条痕文 外面に付着
図4-9	T2 S3	⑧層	甕	(15.2)	-	4.6	外面: 黄褐色 内面: 黄褐色	ハケ	ナデ 頸部以下ケズリ	口縁1/9	口縁外面に上部は欠損し、残存部には貝殻腹 縁による条痕文
図4-10	T2 S3	⑧層	甕	(15.0)	-	4.5	外面: 明赤褐色 内面: 明赤褐色	ナデ	ナデ 頸部以下ケズリ	底部1/3	口縁外面に貝殻腹縁による条痕文
図4-11	T2 S3	⑧層	甕	(14.5)	-	4.0	外面: にぶい黄褐色 内面: 褐色	ナデ	ナデ 頸部以下ケズリ	底部1/2	口縁外面に貝殻腹縁による条痕文 胴上部に貝殻腹縁による押引文
図4-12	T2 S3	⑧層	甕	(17.5)	-	4.6	外面: にぶい黄褐色 内面: にぶい黄褐色	ナデ	ナデ 頸部以下ケズリ	口縁1/6	口縁外面に櫛状工具による沈線文か?
図4-13	T2 S3	⑧層	甕	(17.0)	-	3.8	外面: にぶい黄褐色 内面: 明黄褐色	ナデ	ナデ 頸部以下ケズリ	口縁1/4	口縁外面に貝殻腹縁による条痕文
図4-14	T2 S3	⑧層	甕	(16.3)	-	4.2	外面: 明黄褐色 内面: 明黄褐色	強いナデ	ナデ 頸部以下ケズリ	口縁1/5	口縁外面に貝殻腹縁による条痕文
図4-15	T2 S3	⑧層	甕	(20.8)	-	4.9	外面: 明褐色 内面: 褐色	ナデ	ナデ 頸部以下ケズリ	口縁1/5	口縁外面に櫛状工具による沈線文を2回施文
図4-16	T2 S3	⑧層	甕	(19.4)	-	6.7	外面: にぶい黄褐色 内面: にぶい黄褐色	ナデ	ナデ 頸部以下ケズリ	口縁3/5	口縁外面に櫛状工具による沈線文を2回施文
図4-17	T2 S3	⑧層	甕	(19.0)	-	5.1	外面: 明赤褐色 内面: 明赤褐色	ナデ	ナデ	口縁1/8	口縁外面に貝殻腹縁による条痕文
図4-18	T2 S3	⑧層	甕	(19.6)	-	3.8	外面: にぶい黄褐色 内面: にぶい褐色	強いナデー ハケ	ハケーナデ ケズリ	口縁1/12	-
図4-19	T2 S3	⑧層	甕	(19.3)	-	5.6	外面: 明黄褐色 内面: 明黄褐色	ナデ	強いナデ、ミガ キ 頸部以下ケズリ	口縁1/5	口縁外面に貝殻腹縁による条痕文
図4-20	T2 S3	⑧層	甕	(15.2)	-	5.7	外面: 明黄褐色 内面: 明黄褐色	ナデ	ナデ 頸部以下ケズリ	口縁1/9	口縁外面に貝殻腹縁による条痕文 胴上部に貝殻腹縁による波状文
図4-21	T2 S3	⑧層	甕	(25.1)	-	5.6	外面: 褐色 内面: 黄褐色	ナデ	ハケーナデ 頸部以下ケズリ	口縁1/4	口縁外面に貝殻腹縁による条痕文後下半部に 波状文
図4-22	T2 S3	⑧層	甕	(16.4)	-	6.0	外面: 褐色 黒色 内面: 褐色	ナデ	剥離のため 調整不明	口縁1/6	口縁外面に貝殻腹縁による条痕文 胴上部に貝殻腹縁による押引文 外面に付着
図4-23	T2 S3	⑧層	甕	(16.6)	-	6.4	外面: にぶい黄褐色 内面: にぶい黄褐色	ナデ 頸部以下荒 いミガキ	ナデ 頸部以下ケズリ	口縁1/8	つまみ出しにより口縁をつくる 肩の張りほぼほとんど認められない 外面に付着
図4-24	T2 S3	⑧層	壺	(17.8)	-	5.2	外面: 浅黄褐色 内面: 浅黄褐色	風化のため 調整不明	ナデ 頸部以下ケズリ	口縁1/8	-
図4-25	T2 S3	⑧層	高坏	(14.6)	-	3.6	外面: 褐色 内面: 褐色	ナデ	ナデ	受部口縁 1/12	-
図4-26	T2 S3	⑧層	甕	(14.5)	-	4.2	外面: 浅黄褐色 内面: 浅黄褐色	ナデー ミガキ	ミガキ 頸部以下ケズリ →ミガキ	口縁2/3	内外面に赤色顔料付着
図4-27	T2 S3	⑧層	甕	(17.0)	-	9.1	外面: 明黄褐色 内面: 褐色	ナデ	ハケーナデ 頸部以下ケズリ	口縁4/5	口縁外面に貝殻腹縁による条痕文 胴上部に貝殻腹縁による押引き文 外面に付着
図4-28	T2 S3	⑧層	甕	(25.0)	-	18.6	外面: 明黄褐色 内面: 黄褐色	ナデ	ナデ 頸部以下ケズリ	口縁1/4	口縁外面に貝殻腹縁による条痕文を2回施文 胴上部に櫛状工具による波状文 外面に付着
図4-29	T2 S3	⑧層	把手 付甕	(29.3)	(8.0)	28.2	外面: 褐色 内面: 明黄褐色	ハケーナデ →ミガキ	ハケーナデ 頸部以下ケズリ →ナデ	全体1/2	口縁上部をナデで平坦面をつくる 肩が大きく張り平底をもつ
図5-1	T2 S3	⑧層	高坏	-	-	6.9	外面: 浅黄褐色 内面: 浅黄褐色	受部ナデ 頸部→脚部 ナデ	頸部から脚部 ケズリ	脚部1/1	-
図5-2	T2 S3	⑧層	高坏	-	(11.0)	9.2	外面: 浅黄褐色 内面: 浅黄褐色	風化のため 調整不明	ケズリーナデ	脚部2/3	内部の粘土を櫛状工具で掻き出す
図5-3	T2 S3	⑧層	底部	-	(4.5)	3.1	外面: にぶい黄褐色 内面: にぶい黄褐色	ナデ	ケズリー→ 指頭圧直	底部1/4	-
図5-4	T2 S3	⑧層	底部	-	(7.3)	3.4	外面: 黒色 内面: にぶい黄褐色	ナデーハケ ナデ	ケズリ 指頭圧直	底部1/4	外面に付着
図5-5	T2 S3	⑧層	底部	-	(4.8)	2.1	外面: 褐色 内面: にぶい黄褐色	ナデ	ケズリ	底部1/2	-
図5-6	T2 S3	⑧層	底部	-	(6.9)	2.6	外面: にぶい黄褐色 内面: 褐色	ナデー ミガキ	ケズリーナデ	底部3/4	外面赤色顔料付着 内面も一部赤色顔料付着か
図5-7	T2 S3	⑧層	脚部	-	(18.3)	2.6	外面: にぶい黄褐色 内面: 明黄褐色	ナデ	ケズリーナデ ナデ	脚部1/12	-
図5-8	T2 S3	⑧層	器台	-	(21.4)	8.8	外面: にぶい黄褐色 内面: にぶい黄褐色	ミガキ ナデ	ケズリーナデ ハケーナデ	脚部1/1 全体1/2	脚部外面に貝殻腹縁による条痕文3回施文、 下半部ナデ
図5-9	T2 S3	不明	底部	-	(5.0)	11.4	外面: にぶい黄褐色 内面: 暗灰黄色	ハケ	ケズリーナデ	胴部1/3	-

No.	トレンチ遺構	層位	器種	法量 (cm)			色調	調整		残存率	備考
				口径	底径(脚径)	器高		外	内		
図5-10	T2 S3	㊸層	底部	-	(10.6)	4.3	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	ミガキ	ケズリ→ナデ	底部2/5	-
図5-11	T2 S3	㊸層	底部	-	(4.0)	7.9	外面：橙色 内面：橙色	ハケ→ナデ 指頭圧痕、 ナデ	ケズリ→ナデ	全体1/3	-
図5-12	T2 S3	㊸層	底部	-	(7.0)	10.0	外面：浅黄褐色 内面：浅黄褐色	ナデ→ ミガキ	ケズリ→ナデ	底部1/1	外面煤付着
図5-13	T2 S3	不明	底部	-	(6.2)	16.9	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	ナデ→ハケ 指頭圧痕	ケズリ ケズリ→ナデ 指頭圧痕	底部から胴部 1/3	外面煤付着
図5-14	T2 S5	㊸層	甕	(15.9)	-	3.5	外面：にぶい橙色 内面：橙色	剥離が進む ナデ	ハケ→ナデ 頸部以下ケズリ	口縁1/6	口縁外面に只設腹縁による条痕文 外面煤付着
図5-15	T2	㊸層	甕	(12.0)	-	2.7	外面：明褐色 内面：橙色	ナデ	ナデ 頸部以下ケズリ	口縁1/10	口縁外面に只設腹縁による条痕文 外面煤付着
図5-16	T2	㊸層	甕	(13.4)	-	3.8	外面：にぶい黄褐色 内面：明黄褐色	ナデ	ナデ 頸部以下ケズリ	口縁1/4	口縁外面に只設腹縁による条痕文後一部ナデ
図5-17	T2	㊸層	甕	(13.6)	-	3.3	外面：にぶい黄褐色 内面：明黄褐色	ナデ	ナデ 頸部以下ケズリ	口縁1/4	口縁外面に只設腹縁による条痕文後一部ナデ 外面煤付着
図5-18	T2	㊸層	甕	(16.0)	-	4.2	外面：明黄褐色 内面：明黄褐色	ナデ	ナデ 頸部以下ケズリ	口縁1/10	口縁外面に只設腹縁による条痕文?
図5-19	T2	㊸層	甕	(16.0)	-	3.3	外面：浅黄褐色 内面：浅黄褐色	ナデ	ナデ 頸部以下ケズリ	口縁1/6	口縁外面に只設腹縁による条痕文?
図5-20	T2	㊸層	甕	(14.9)	-	4.6	外面：にぶい黄褐色 内面：明黄褐色	ナデ	ナデ 頸部以下ケズリ	口縁1/6	口縁外面に只設腹縁による条痕文
図5-21	T2	㊸層	甕	(14.4)	-	4.8	外面：浅黄褐色 内面：にぶい黄褐色	ナデ	ミガキ 頸部以下ケズリ	口縁1/6	口縁外面に只設腹縁による条痕文 胴上部に危状工具による刺突文
図5-22	T2	㊸層	甕	(15.8)	-	4.9	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	ナデ	ナデ 頸部以下ケズリ	口縁1/5	口縁外面に只設腹縁による条痕文、後に一部 波状文 胴上部に只設腹縁による押引文
図5-23	T2	㊸層	甕	(13.8)	-	5.3	外面：灰黄褐色 内面：灰黄褐色	ミガキ	ナデ 頸部以下ケズリ	口縁1/12	口縁外面に只設腹縁による条痕文 外面煤付着
図5-24	T2	㊸層	甕	(17.5)	-	4.7	外面：浅黄褐色 内面：浅黄褐色	風化のため 調整不明瞭	ナデ 頸部以下ケズリ	口縁1/7	口縁外面に施文あり 外面煤付着
図5-25	T2	㊸層	甕	(16.2)	-	5.0	外面：橙色 内面：橙色	ナデ	ナデ 頸部以下ケズリ	口縁1/4	口縁外面に只設腹縁による条痕文
図5-26	T2	㊸層	甕	(19.2)	-	4.7	外面：浅黄褐色 内面：浅黄褐色	ナデ	ナデ	口縁1/8	口縁外面に只設腹縁による条痕文
図5-27	T2	㊸層	甕	(22.4)	-	5.8	外面：橙色 内面：にぶい黄褐色	ナデ	ナデ 頸部以下ケズリ	口縁1/16	-
図5-28	T2	㊸層	底部	(3.8)	-	4.7	外面：にぶい橙色 内面：にぶい黄褐色	ナデ	ナデ	底径1/3	-
図5-29	T2	㊸層	底部	(4.2)	-	2.6	外面：黄褐色 内面：にぶい黄褐色	ハケ→ナデ ナデ	ケズリ	底部1/4	-
図5-30	T2	㊸層	底部	(3.8)	-	2.6	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	ハケ ナデ	調整不明	底部1/4	-
図5-31	T2	㊸層	底部	(4.8)	-	2.7	外面：橙色 内面：灰黄褐色	指頭圧痕	調整不明	底部1/1	-
図5-32	T2	㊸層	底部	(3.6)	-	2.7	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	ナデ	ケズリ 指頭圧痕	底径1/3	-
図5-33	T2	㊸層	底部	(6.6)	-	1.9	外面：にぶい黄褐色 内面：浅黄褐色	ナデ	指頭圧痕	底部1/4	-
図6-1	T3	㊸層	縄文	-	-	2.9	外面：明黄褐色 内面：明黄褐色	磨消縄文	擦痕あり	-	2条の沈線文 L.R縄文による施文
図6-2	T3	㊸層	脚部	-	(16.7)	4.2	外面：黒褐色 内面：黒褐色	ナデ	ケズリ→ナデ	脚部1/2	-

石器

No.	トレンチ遺構	層位	種類	法量 (cm)				材質	備考
				最大長	最大幅	最大厚	重さ(g)		
図7-1	T1	㊸層	砥石	11.5	3.3	2.75	151.7	-	3面に研磨痕
図7-2	T3	㊸層	砥石	6.5	2.9	2.9	47.8	-	2面に研磨痕
図7-3	T2 S3	㊸層	磨石か?	9.6	7.2	2.9	296.6	-	
図7-4	T2 S3	㊸層	磨石か?	8.1	8.0	5.1	416.3	-	